桜友同窓会報

No.48
2022.07

山形県立楯岡高等学校
山形県立東桜学館高等学校

桜友同窓会のよさを感じています

同窓会長
笹原幸悦

私が同窓会事務局に関わらせていただいて6年目になります。後半はコロナ禍の中ということで、夏恒例の形での同窓会総会も開催できずに悶々とした日々を過ごしております。でも、実は同窓生の一人であるということのよさも十分に感じているのも事実です。それは同窓会の2つのねらい（①会員相互の親睦②母校の後援）と関係があります。

まず1つ目のよさですが、先輩や後輩の皆さんとの関わり、同期の仲間とのつながりを深めることができているということです。東京支部の皆さんの勢いも聞こえてきています。そんな時とてもうれしい気持ちになれるのです。同窓会に関わらせていただいて感じることのできた喜びだと思って感謝しています。

2つ目は、母校の後援がねらいなのですが逆に母校の生徒の皆さんからたくさんの元気をいただいているということです。この3月、中高一貫校としてスタートした一回生の卒業がありました。半数は中学校からスタートした一貫性、半数は高校からスタートした高入生です。学校のホームページを見ても分かる通り、一人一人素晴らしい旅立ちをしたと伺っております。私が特にうれしかったのは、一貫生と高入生がお互いに切磋琢磨した高校生活を送ったということです。もちろん、そこには先生方の献身的なご努力があったことは容易に想像ができます。先生方にも感謝です。

令和4年度になり在校生の素晴らしい活躍も聞こえてきます。同窓会に関わらせていただいて沢山の元気をいただいております。ありがとうございます。

令和3年度
桜友同窓会総会は評議員による代行総会

昨年度の桜友同窓会報（No.47）にてお知らせしましたが、令和3年7月31日（土）に「評議員会による代行総会」を村山市民会館で開催しました。

笹原同窓会長は、挨拶で旧楯岡高校の跡地の状況、同窓会総会が代行総会となった経緯、母校100周年記念事業実行委員への感謝を述べました。

総会議長には総会当番学年の「恒究会（昭和59年卒）」の狩野佳和さんが選出され、議事進行を務めました。

協議された議案は9件で、すべて承認されました。疋田和歌子監事の退任による後任監査委員は増川清美さん（昭和52年卒「威風会」）が選任されました。

協議された議案

①令和2年度事業報告
②令和2年度会計決算
③令和3年度桜友同窓会運営方針
④令和3年度事業計画
⑤母校創立100周年記念のつどい
⑥令和3年度会計予算
⑦母校創立100周年記念事業特別会計
⑧令和4年度同窓会総会
⑨監事の選任

令和4年度
桜友同窓会総会
今年度も評議員による代行総会

令和4年度の桜友同窓会総会は、昨年の総会（代行総会）において令和4年8月6日（土）に開催することに議決されていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大収束が見通せない状況のため、昨年度と同じく同窓会会則8条の規定に基づき「評議員の代行総会」となりました。

代行総会は、令和4年7月16日（土）午前10時から村山市民会館にて開催しました。総会の議長は総会当番学年の「昭和60年卒 睦和会」の平田賢司さんが選出され、議事進行を務めました。

議題は次の通りで、すべて承認されました。

①令和3年度事業報告
②令和3年度会計決算について
③母校創立100周年記念事業特別会計執行状況について
④令和4年度桜友同窓会運営方針について
一　母校創立100周年記念事業
二　会員の親睦と交流の促進
三　母校後援事業
⑤令和4年度事業計画について
一　母校創立100周年記念事業への取り組み
二　会員の親睦と交流の促進
三　母校後援事業
＊同窓会報の全同窓生への郵送事業は、第49号まで。
＊運営協力金は、令和4年度まで。
四　「記念のつどい」（母校創立100周年記念事業）実施
＊記念碑除幕式
⑥令和4年度会計予算について
⑦令和5年度同窓会総会について
・日　時／令和5年8月5日（土）午後1時～
・懇親会／午後2時30分～
・場　所／「甑葉プラザ」村山市楯岡五日町
・当番学年／麓登会（昭和61年卒）
燦章会（平成15年卒）
・次期当番学年／無双会（昭和62年卒）
青春会（平成16年卒）
・招待学年／石楠花会（昭和47年卒）
⑧役員改選
（令和4年7月～令和7年7月）
会　長
笹原　幸悦（昭和48年卒）**再任**
副会長
加藤由紀子（昭和40年卒）**再任**
佐藤　直（昭和42年卒）**再任**
森谷　光一（昭和43年卒）**再任**
青木八栄子（昭和49年卒）**再任**
監　事
増川　清美（昭和52年卒）**再任**
柴田　明（昭和54年卒）**再任**
事務局長
安達　直彦（昭和46年卒）**再任**
事務局
原田　成夫（昭和46年卒）**再任**
青木八栄子【兼任】**再任**
井澤　英悦（昭和52年卒）**再任**
藤野　裕（昭和48年卒）**新任**

なお、恒例の総会終了後の懇親会は中止となりました。

令和4年度運営協力金のお願いと令和3年度同窓会運営協力金へのお礼

常日頃、同窓会活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

同窓会への運営協力金は、令和４年度で一旦終了します。これまでのご協力に感謝申し上げます

これまでに同窓生からご協力頂きました運営協力金は、平成28年度から延べ3,251件、総額1,174万円余りになり、令和３年度分は459件、185万円余りで、全同窓生への同窓会報発行に使わせていただいております。

運営協力金は１口千円でありますが、２口以上お願いできれば幸いです。

ご協力いただいた方々のご氏名、口数を次回の同窓会報に掲載いたします。

なお、匿名を希望する方は、その旨ご記入してください。

令和４年７月

支部・同期会たより

同窓会では各学年毎に開催する同期会には１年につき10,000円のお祝い金を準備しております。詳しいことは事務局までご連絡ください。

S48年卒 志峰会

新型コロナ感染状況が落ち着いた時期を選び、出席者を限定し開催した。

懇親会では、

○笹原同窓会会長への激励及び慰労

○当日誕生日を迎えた同期生の誕生祝

など、久方ぶりに懇親を深めた。

懇親会はマスク会食を徹底し、感染防止を行った。

●東京支部●

支部総会開催に向けて

支部長　青柳義昭

盛夏の候　同窓会の皆様にかれましては如何お過ごしでしょうか。

コロナ禍も先行き不透明なところもありますが、6月に入って会食や旅行、入国制限の解除など行動制限が徐々に進められています。私たち一人一人が感染防止を継続して是非とも早期の収束を望みたいものです。

東京支部の活動も、この2年余り出来ませんでしたが、少数の役員間でオンライン会議を重ねて、4月中旬に27名の役員参加を得て東京支部役員会を実施しました。新旧役員の引継ぎと4年半ぶりの9月中旬に支部総会開催を決定して、会場確保、案内状作成などの準備をして参りました。

しかしながら、最近の感染再拡大を踏まえ、安全安心な総会運営が難しいと判断して、残念ですが2023年3月へ延期したところです。

開催に向けて、役員の方々にはこれまで以上のご苦労をお掛けすることと思いますが、コロナ禍が収まり、支部総会が実現出来ますことを願うばかりです。

母校東桜学館の体制もしっかりと確立され、進学状況なども素晴らしいものがあるとの情報も頂いております。東桜学館の益々のご発展、そして桜友同窓会も一層活性化されますことを望みたいと存じます。

東京支部役員

支部長　青柳義昭（昭和43年卒）
副支部長　青山和子（昭和43年卒）
副支部長　前田二郎（昭和45年卒）
会計・書記　熊澤　潔（昭和45年卒）
会計・書記　天野茂雄（昭和45年卒）
監査役　佐藤和子（昭和43年卒）
事務局　小座間次男（昭和47年卒）
事務局　岡　良子（昭和45年卒）

東京支部連絡先は下記の通りです。
事務局
Mail → ouyuu.tokyo@gmail.com
TEL → 090-6817-7816（岡）
（支部総会に参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。詳細が決まり次第お知らせいたします、）

令和２年度決算の概要

収入　　単位：円

入会金・会費	1,970,000	10,000円×令和３年３月卒 197名
運営協力金	2,192,000	同窓会運営協力金
繰入	500,000	100周年記念事業特別会計、部活動等支援金
雑収入・繰越金	1,746,473	
計	6,408,473	

支出

事業費	203,087	総会費・同期祝い金・母校後援費
会報発行費	2,566,187	同窓会報発行費
会議費	31,116	評議員会費等
積立金・諸費等	782,640	記念事業積立金・事務局費・諸費
計	3,583,030	

※収入6,408,473円－支出3,583,030円＝2,825,443円は、令和３年度に繰越

令和３年度決算の概要

収入　　単位：円

入会金・会費	1,770,000	10,000円×令和４年３月卒177名
運営協力金	1,850,380	同窓会運営協力金
雑収入・繰越金	2,835,587	
計	6,455,967	

支出

事業費	484,771	総会費・同期祝い金・母校後援費
会報発行費	2,583,226	同窓会報発行費
会議費	83,223	評議員会費等
積立金・諸費等	676,027	記念事業積立金・事務局費・諸費
計	3,827,247	

※収入6,455,967円－支出3,827,247円＝2,628,720円は、令和４年度に繰越

令和3年度、楯岡高等学校新たなステージでの挑戦

校長　官　宏

桜友同窓会の皆様には、日ごろから温かい御支援と御協力を賜り心より感謝申し上げます。

同窓会から寄贈いただきました「千鍛万錬」と「東桜魂」の横断幕が日々活動する生徒諸君を激励する中、開校7年目を迎える本年度は、新たなステージでの挑戦が始まっております。

昨年度は、東桜学館中学校1期生が高校3年生となり、これまで東桜学館では挑戦することがなかった大学に数多くの生徒がチャレンジし、東京大学、一橋大学、東京工業大学、山形大学医学部医学科などの難関大学に合格者を輩出することができました。また、（あくまでも一つの目安ですが）地域の中学校から東桜学館に進学した生徒（東桜学館では「高入生」と呼んでいます。）の国公立大学の合格率が、開校以来、過去最高となるなど健闘が光りました。

学校全体に、切磋琢磨する環境、互いに学び合い、高め合う環境が醸成されていることを、たいへん誇らしく、うれしく感じています。後輩諸君には、進路希望実現をはじめ、様々な挑戦に果敢に挑んだ先輩の姿から受けた刺激を自らの力に変え、それぞれの可能性を最大限広げてほしいと願っております。

また、文部科学省から指定を受けておりますスーパーサイエンスハイスクール（SSH）については、1.7倍の関門をクリアし、引き続き2期目5年間の事業に取り組むこととなりました。これまで課題研究「未来創造プロジェクト」をはじめとする新たな事業に取り組んできた生徒諸君、先生方の努力が報われた成果としてたいへんうれしく感じております。

さらに、中学3年生における「校内英語ディベート大会」の開催をはじめ、中高6年間を見通した先進的な取組にも挑戦しております。そして、「やまがたイノベーションプログラム」において、本校の中学生が高校生チームをおさえて最優秀賞を受賞、「やまがたAI甲子園」での3位入賞、「スタンフォード大学国際異文化教育プログラム」や「東京大学グローバルサイエンスキャンパス（GSC）」における研究活動など、昨年度も、数多くの生徒が自発的に様々な取組に積極的に挑戦し成果を収めました。本校が目指す「主体的に学ぶ自立した学習者」、「自走する生徒」の育成が確実に具現化されてきております。引き続き、様々な挑戦が可能な学校として環境整備に努めて参りたいと考えております。

そして、これからの地域、山形県、日本、世界の発展に寄与する若者が、これまで以上に東桜学館から、そして山形県から出てきてくれることを期待しているところです。

残念ながらコロナ禍の影響が続く令和4年度のスタートとなりましたが、マレーシア、タイの学校と生徒間交流が始まるなど国際交流も進んできました。今後は、相互訪問による対面での交流を目指していきます。そして、それを実現する日が1日でも早く訪れることをコロナの収束と共に願いたいと思います。

最後になりましたが、県立楯岡高等学校の歴史を継承しながら、特色ある活動をさらに発展・充実させ、躍進する東桜学館の主役として、すべての生徒がそれぞれの個性溢れるきれいな桜（はな）を大きく咲かせることができるよう日々努力して参ります。今後とも御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本校の教育活動については、随時、ホームページにより情報を発信しておりますので併せて御覧いただければ幸いです。

東桜学館高校の卒業生進路状況

分類		令和元年度（令和3年3月）卒業生（人）		
		男子	女子	合計
進学	国立大学	35	25	60
	公立大学	3	7	10
	私立大学	18	26	44
	国公立短大	0	6	6
	私立短大	0	1	1
	看護・医療系専門学校	2	7	9
	看護・医療系以外の専門学校	2	0	2
	職業訓練校・公立大学校	2	0	2
	進学合計	62	72	134
就職	公務員	2	1	3
	民間	0	1	1
	就職合計	2	2	4
その他	海外留学等・防衛大学校等	0	1	1
	その他（浪人等）	8	10	18
	その他合計	8	11	19
合計（卒業人数）		72	85	157

今年度も新型コロナウィルス感染症の拡散防止対策が学校行事にも大きな影響を与えましたが、対応が定着したこともあり、多くの学校行事は変更しながらも実施できました。

4月7日、中・高の入学式が行われました。中学、高校はそれぞれ時間をずらしての開催となり、来賓や父兄の参加もある程度制限しての開催となりました。

学校が始まってからは例年通りの行事日程でほとんどの事業が再開されました。

部活動も4月に新入生への部活動紹介なども例年通り行われ、スタートしました。

地区総体や県総体等は例年通りに開催されましたが、これまでとは違い、選手として参加する生徒と顧問、学校が認めるコーチのみが参加、無観客での大会となりました。残念ながら応援の父兄の参加もできませんでした。

7月にはクラスマッチが開催され、8月の東桜祭（文化祭）も2年ぶりに開催されましたが、地域の方を入れずに生徒のみの開催となりました。

学園祭での1コマ

また、7月末から8月上旬にかけて和歌山県で行われた全国高等学校総合文化祭には放送部、書道部、写真・新聞部が参加しました。

10月には校内マラソン大会、地区新人戦や県新人戦が開催されましたが、ほとんどが無観客での開催となりました。

2年生の研修旅行は、シンガポール・関西圏の予定でしたが、長崎、出雲方面へと変更されました。

また、恒例のかるた大会は12月に実施され、新しく寄贈された十二単衣に身を包んだカルタ部員の読み上げによって華やかに開催されました。

また、2018年に認定を受けたユネスコスクールの活動の一環としてマレーシアのSMKアガマ中等学校にビデオレターを送ったり、9月にはタイのノーンヒンウィッタヤーコム校と国際交流をすることになり、オンラインでの生徒同士の交流開始式を行いました。

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業は平成29年度に指定を受け、今年度はⅠ期目の最終年度の5年目を迎えました。「やまがたの未来をつくるグローカルな視点を持った科学技術人材育成プログラム」を研究開発のテーマとして、取り組んで来ました。

今年度開催された主な事業をご紹介します。

「SS総合探究Ⅰ」「SS総合探究Ⅱ」「SS総合探究Ⅲ」を開講しました。

○東京大学教養学部の「高校生と大学生のための金曜特別講座」

前期後期あわせて17回開講し、のべ811名の生徒が受講した。

○SS健康科学

6月から開始されました。

県立保健医療大学や県立米沢栄養大学、山形大学地域教育文化学部の先生方による出張講義が開催されました。

○東桜サイエンスラボ

7月には、地域の小学生及び保護者対象の科学実験教室として実施しました。32組64名の小学生とその家族の方が参加、講師は主に本校の教員で行い、中学生及び高校生がティーチングアシスタント（TA）としてサポートを行いました。

○国際理解講演会

7月20日東北地方ESD活動支援センターの鈴木美紀子氏、井上郡康氏から「SDGSの説明と日本の現状」や「外国のごみ問題」についてお話を聞きました。大変楽しく有意義な講演会となりました。（ESDとは持続可能な開発のための教育）

○SSH生徒発表会

8月に神戸市でひらかれた大会に参加しました。全国の参加者との発表を通した交流を行い、新たな考えや発表についてのスキルを学ぶ事ができました。

○未来創造プロジェクト中間発表会

高校2年次の生徒が41のグループに分かれてそれぞれの課題に基づき発表を行いました、高校1年生が参加し、外部からは山形県立村山産業高校、岩手県立水沢高等学校が来校し、東海大学付属高輪台高等学校とはオンラインで結んで交流できました。

○第10回科学の甲子園山形県大会に参加

大会は筆記と実技競技があり筆記は10月18日、実技は10月24日に開催され、筆記に6名、実技に4名が協力して課題に挑みました。

○飛島フィールドワーク

「飛島フィールドワーク」を2泊3日で計画し、予定通り実施できました。参加者は18名であった。

○山形県探究型学習課題研究発表会

一般の部4テーマ12名、高文連科学専門部1テーマ4名が参加しました。一般の部で、「油の保存性を高めるには」優秀賞（物理化学領域）、「CNFラッピングでごみを減らそう!」優秀賞（数学・総合領域）と、発表した4班のうち2班が、受賞する結果となりました。

○東北地区サイエンスコミュニティ研究校発表会

青森県立青森高校主催でオンライン形式で開催され、本校代表が「セルロースを用いた天然由来の食品包装 用紙の作成」のテーマで、パワーポイントを用いた動画を作成し、リモートで口頭発表を行いました。参加した生徒たちは、参加校の質の高い研究に触れたことはもちろん、自らの研究について発表できたことは大変有意義な経験となりました。

○未来創造プロジェクト成果発表会

校内生徒のみの実施となりましたが、中高同時開催で、異校種間の交流でお互いの良さを実感する機会となりました。全体会の様子は、保護者へオンラインで限定公開を行いました。

このほかにも生徒達は様々な大会やコンクールに積極的に参加し大杯の入賞を果たしております。

令和4年度から5カ年間の第Ⅱ期の指定を受けました。

詳細は東桜学館のホームページに載っておりますのでぜひご覧ください。

同窓会入会おめでとう

令和３年度同窓会入会式は、令和４年２月28日（月）に東桜学館北アリーナにて行われました。今年度の入会は「飛彩会（ひいろかい）」157名。

笹原幸悦（Ｓ48年度卒）同窓会長からの歓迎のことばは次のとおりです。

ひとつは同窓生としての絆、横（同期会）のつながりであり縦のつながりです。毎年夏に同窓会を開催し多くの年代の同窓生が懇親を深めていましたが、残念ながらここ2年間はコロナ禍の影響で実施されていません。

ふたつは在校生（後輩）への支援であります。特に今年は創立100周年を迎え、同窓会としても数々の記念事業もやらせていただきました。来年度に実施予定の事業もあります。

同窓会の理解を深めていただくために「３つの数字」を示します。

「100」は、本校が県立高校になって今年度100周年となります。

「５」は、現在の「東桜学館校」は５つ目の高校名となります。

「20240」は、同窓生の人数です。先輩方が社会の様々な立場で活躍しています。困った時は先輩方が力を貸してくれるはずです。

同窓会には多くの同期会があります。そのなかで皆さんは特別な学年です。

①一貫生と高入生が一緒になった最初の学年で、新しい歴史を作りました。

②コロナ禍で長い休校を経験し、教育活動も制約された中での高校生活を過ごしました。

これらの誰も経験しなかったことを乗り越えた皆さんは素晴らしい。ここにいる仲間がいたからこそ乗り越えられたのではないでしょうか。不安な生活の中で、私たち市民も皆さんの姿からたくさんの元気をもらいました。

卒業後はそれぞれの道を歩むことになります。これから先は良いことばかりではありません。ピンチの時もあります。大事なことは失敗しないことではなく、その失敗から再び立ち上がることです。失敗は成長のチャンスです。前を向いていきましょう。

同窓会の存在は忘れてしまうかもしれません。それでも同窓生としての縦横のつながりは消えません。ふと思った時に戻れる場所が同窓会です。いつでも受け入れてくれる仲間たちがいます。桜友同窓会は明日から皆さんの旅立ちをずっと応援しています。

「飛彩会」から、入会への挨拶と新役員の紹介がありました。

入会記念品として、全員に東桜学館中学校・高等学校、楯岡高等学校の校歌を収録したCDを贈りました。

飛彩会（ひいろかい） 157名

会　長　矢萩昭平　副会長　元木彩音

クラス代表

１組　青柳匠朗　　２組　矢萩昭平

３組　中島孝太　　４組　横川　唯

５組　元木彩音

入学式

令和４年４月７日、東桜学館中学校・高等学校の入学式が行われました。中学校には地域の小学校から入学した７期生99名、そして高等学校には、本中学校から進学した第４期の一貫生と各中学校から入学した高入生合計191名のみなさんです。

官校長の式辞に続いて、本校後援会長である土田正剛東根市長から、「本市は県内で最も勢いと元気があるまちと称され、昨年の住みよさランキングでは北海道・東北ブロックで第１位となりました。その一端を担い、本校に隣接するまなびあテラスは、図書館や美術館、そして学習コーナーなどを兼ねそろえていますので、可能な限り利用していただき、ここ東根に愛着を感じてほしいと思います。」とお祝いの言葉が送られました。

笹原同窓会長からは、「前身の県立楯岡高等学校を母体にしている本校からは、各界に２万余名の素晴らしい多くの人材を輩出しています。皆さんも先輩方に続き、社会を創る一人のメンバーとして研鑽し、大きな夢を本校で育まれることを期待いたします。」と、お祝いのメッセージを送りました。

卒業式

中学校

令和４年３月13日、東桜学館中学校の第４回卒業証書授与式が行われました。

官校長からは、「第４期生の皆さんは、未曾有の感染症の影響を受けながらも、本校の三つの理念のもと、東桜学館ならではの高く難しいハードルを仲間と協力しながら見事に乗り越えてきました。社会には様々な課題が山積しています。世界に目を向ければ、人々の平和な暮らしを脅かす悲しい出来事も起きています。そのような中、令和の主役となる皆さんは人として自立し、地域社会、国際社会の発展に貢献するため、そしてこれからも変化の激しい時代をたくましくしなやかに生きていくために学び続けてください。果敢にチャレンジし、自らの夢、目標の実現に向けて邁進してください。」と激励の言葉がありました。

笹原同窓会長からは、「北京オリンピックのカーリング競技で日本として史上初の銀メダル獲得という快挙を達成したチーム『ロコ・ソラーレ』のリザーブ石崎琴美選手が、裏方として果たした役割に触れて、石崎選手の存在無くして日本チームの快進撃はなかったと紹介しました。卒業生の皆さんが将来社会生活を送る上で、一人一人に大切な役割があります。自分にあった役割を自分で決めることになりますが、それぞれすべてが大切な役割です。どうぞ自分の心に従って前に前に歩んでいってください。」と、同窓会を代表してのお祝いのメッセージを送りました。

卒業生を代表して古沢拓眞さんが、「コロナ禍の中で学校生活が再開されるまで３か月間かかったこと、新しい生活様式になり活動が制限された中で生徒同士のつながりを強めるために工夫してきたこと、体育祭、東桜祭、合唱交流会、カルタ交流会、縦割り清掃など、思い出すと今でも胸が熱くなってきます。この一年思うようにいかなかったが、こんな時こそ限界を作らず最高の一年を創りあげることができました。最高の仲間たちの笑顔をこれからも大切にしたい。この時代をたくましく乗り越え、大いに学び走り続けます。」と決意の言葉を述べました。

高等学校

令和４年３月１日、第６回卒業証書授与式が行われました。卒業生は157名の仲間です。

官校長は式辞で「皆さんは高入生と一貫生が初めて集った学年として様々なことにチャレンジしてきました。学校ではより高いハードルを課してきましたが、皆さんは志が高く、仲間と励ましあい、互いに切磋琢磨しながら見事にその壁を乗り越えてきました。教職員として誇らしく、大きな勇気になりました。これからは、道なき道を開拓し新たな世界で飛躍されることを願います。」とはなむけの言葉を贈りました。

笹原同窓会長からは、「今年度は、東桜学館中学校に入学した一貫生と高等学校に入学した高入生が一緒になって初めての卒業生を送りだすという記念すべき年です。さらに申し上げるならば、本校が大正10年に県立高等学校としてスタートしてから百周年を迎えたという記念すべき年でもあります。卒業生の皆さんにとってコロナ禍の中でのたいへん厳しい高校生活が続いた訳ですが、その中でも前を向き続けた皆さんをたいへん誇らしく思います。皆さんの姿からは同窓生のみならず私たち市民もたくさんの勇気と元気をいただきました。」と、同窓会を代表してのお祝いのメッセージを送りました。

在校生代表早坂京夏さんの送辞を受け、生徒会長を務めた青柳匠朗さんが卒業生代表として答辞を述べました。青柳さんは３年間の貴重な体験を振り返り、「3年前、新しい仲間との出会いがあり、期待を膨らませながら特別な学年として学校生活をスタートさせました。残念ながら３年間の３分の２が未曾有の感染症のためにままならぬ状況になりました。様々な制約がある中でできることを模索しながら目の前のことに全力で取り組んできました。特に今年度はプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、仲間と励ましあいながら乗り越えて努力を続けてきました。後輩の皆さんにも協力してもらい最高の学校生活でした。高い学びの場を与えていただき、厳しくもあたたかく導いていただいた先生方に心から感謝いたします。」と力強く結びました。

母校創立１００周年記念事業

母校創立１００周年記念事業は、令和元年度に準備委員会を立ち上げ、令和２年度に実行委員会を設立し、これまで準備を重ねてきました。当初予定では令和３年度に１００周年記念事業を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの蔓延により記念式典など集まっての会合は延期を余儀なくされましたが、ようやく４年度に入り記念式典等の実施のめどがついてきました。

これまで行われた百周年記念事業と令和４年度に計画されている主な事業は次の通りです。

1. 同窓会会員名簿の発行
１０８０部印刷しました

2. 記念碑の建立
楯岡高校の講堂跡地に現在建立中です。
講堂の基礎石となっていた楯山石も使います。
11月の記念式典時に披露する予定です。
また、楯岡高校の正面玄関前にあった校歌碑も一緒に設置します。

3. 記念式典
令和４年11月５日
記念碑の除幕式と記念式典を開催の予定です。

4. 記念誌の発行
令和５年度末に同窓会報の縮刷版を発行します。

5. 桜友同窓会のホームページを立ち上げました

6. 学校関係の事業

①記念演奏会・講演会の実施
令和４年９月15日（木）
やまぎん県民ホール（山形駅西口）

記念演奏会
「山形交響楽団の演奏」
「吹奏楽部との合同演奏」

記念講演会
講師：日本マラウイ協会理事
文化交流委員長
草刈康子氏
（平成３年卒　磋三（さざん）会）

②部活動への寄贈
吹奏楽部のオリジナル曲の作曲ならびに楽器の購入
野球部のユニットハウス　等

吹奏楽部100周年楽器購入

記念演奏会・記念講演会のご案内

日　時　令和4年9月15日（木）　午後1時開演

場　所　やまぎん県民ホール（山形駅西口）

内　容
①記念演奏会
山形交響楽団の演奏
東桜学館吹奏楽部との合同演奏
百周年記念委嘱作品披露
八木澤教司作曲「悠遠の羇旅～芭蕉の歩いた出羽路」
②記念講演会（オンラインでの講演）
講師：日本マラウイ協会理事・文化交流委員長　草刈康子氏
（平成３年卒・磋三会）

定　員　先着100名

締　切　希望者は８月末日まで事務局に電話等で申し込んでください。
TEL：090－2794－7502（同窓会事務局専用）

地域の話題

にぎわい創造活性化施設
「Link MURAYAMA」７月22日オープン！

村山市は、令和２年に山形県から楯岡高校跡地の譲渡を受け、同年10月に教室棟など校舎の一部を解体した後、令和３年７月より校舎の改修工事が進められてきました。

そして、今年７月22日、旧楯岡高校は「にぎわい創造活性化施設Link MURAYAMA」としてプレオープンいたしました。

施設の愛称は全国から公募し、約200点もの応募の中から、村山市の未来に向けて相応しい名称として、同窓生の落合直義さん（山形県在住・昭和45年３月卒業）考案の『Link　MURAYAMA（リンクむらやま）』が選考されました。

この愛称には、村山市が目指す「次の世代へ引き継ぐ魅力ある村山市」にLinkし、多様な世代、多様な事業者がLinkする施設、様々な出会いをLinkさせる（起業、創業）施設、旧楯岡高校の歴史を未来にLinkさせる施設など多くのリンクの意味が込められています。

施設は、「多様な利用者が集い、にぎわいの創出と経済効果を生む拠点」として、たくさんの機能を兼ね備えた複合施設です。特徴として、県内外から15社が入居しオフィスとして利用。これからの生活様式に合った新しい働き方が出来るコワーキングスペース。健康づくりのためのフィットネス。子どもたちが学びながら楽しんで遊べるスペース。居心地の良いカフェスペース。コミュニティスペースとしてのシェアキッチン。観光案内所、移住者の相談所としても活用いただけます。

楯岡高校の歴史を繋いで、地元の人に愛され親しまれる場所を目指すことはもちろん、地域の活性化の一端を担う施設となります。

施設内は、旧校舎の古材を利用してつくられた家具が置かれ、教壇や教室の床材などはそのまま利用されているため、随所に懐かしさを感じる部分が残っています。来館された同窓生の方々が、旧楯高の名残を発見しながら楽しんで施設内を見学してくださっているのが印象的です。

講堂跡地に建てられる同窓会記念碑は、駐車場の整備が整った11月のグランドオープンの際にお披露目の予定です。楽しい催しを用意して皆さんをお迎えします。同窓生の皆様、村山市の新しい施設「Link MURAYAMA」にぜひご来館ください。

編集後記

コロナ感染もようやく落ち着きを見せ、少しづつ従来の生活を取り戻せるようになってきました。

学校生活も一部の事業を除いて、実施されるようになってきています。大変うれしいことなのですが、ここで気を緩めすぎると、またどうなるかと心配されます。

さて、今年度も総会は評議委員会による代行開催となりました。

100周年事業については学校関係の事業も少しづつ動き出し、秋の９月には記念講演会、演奏会、11月に記念式典、記念碑の除幕式が実施することが決まりました。

このまま無事に実施できることを願っています。

また、楯高跡地に整備しているLINK村山も７月にはプレオープンしました。記念碑は敷地内講堂の跡地に建設中です。機会がありましたらぜひお立ち寄りください。

会員皆様のますますのご協力をお願い申し上げます。

また、会員皆様からのご意見、掲載記事等についてもぜひご一報ください。

［写真提供協力　氏井フォトスタイル］

発行所　山形県立東桜学館高等学校内 桜友同窓会事務局
〒999－3730 山形県東根市中央南一丁目７番１号　TEL：090－2794－7502
ＨＰ：http://ouyuu-yamagata.jp/　　E-mail：info@ouyuu-yamagata.jp
印　刷　坂部印刷株式会社